

柿マネジメントプラットフォーム

Botta!

収穫されずに残っている柿とそれを欲しいと思っている人たちに
つなげる地域のプラットフォーム

兵庫県 豊岡市 シン稽古堂塾

みなさん、柿は好きですか？



毎年約 8 割の人は柿を食べるらしいですが…

(シン稽古堂塾によるアンケート調査結果 n=27)



年々、収穫や管理の難しい木が増え、
放置されている木が増えているらしいのです



検証のためにデータを 探すも見つからず、、、 いざ、イベント実施！

柿マネジメントプラットフォーム

Botta!



収穫されずに残っている柿とそれを欲しいと思っている人たちに
つなげる地域のプラットフォーム

マッピング

地域を歩き、スマホを使って柿の木の位置を記録します。イベントは意外とみんなが楽しめます！

僕の柿
ぼった？

データ分析

柿の木のデータを分析し、柿の利用と管理についてみんなで考えます。クマ対策にもつながります。

マッチング

収穫してほしい柿の情報が利用者に届きます。柿をもらう代わりに地域の困りごとに協力しよう！



全国のクマ被害者数 過去最多を更新！



誘引物である柿をなんとかしようとして
住民も行政も対策を始めている！

実現に向けて

実証フェーズ：シン稽古堂塾（ボランティア）が主体となって、豊岡市内の地区・行政と連携しマッピングイベント、データ分析、マッチングを行います。

実装フェーズ：行政や民間などのサービスとして実装化を目指します。

企画者：シン稽古堂塾

豊岡市のシビックテック団体です。これからの時代を生き抜くための学び舎としてデジタルやデザインを自由に学んでいます。



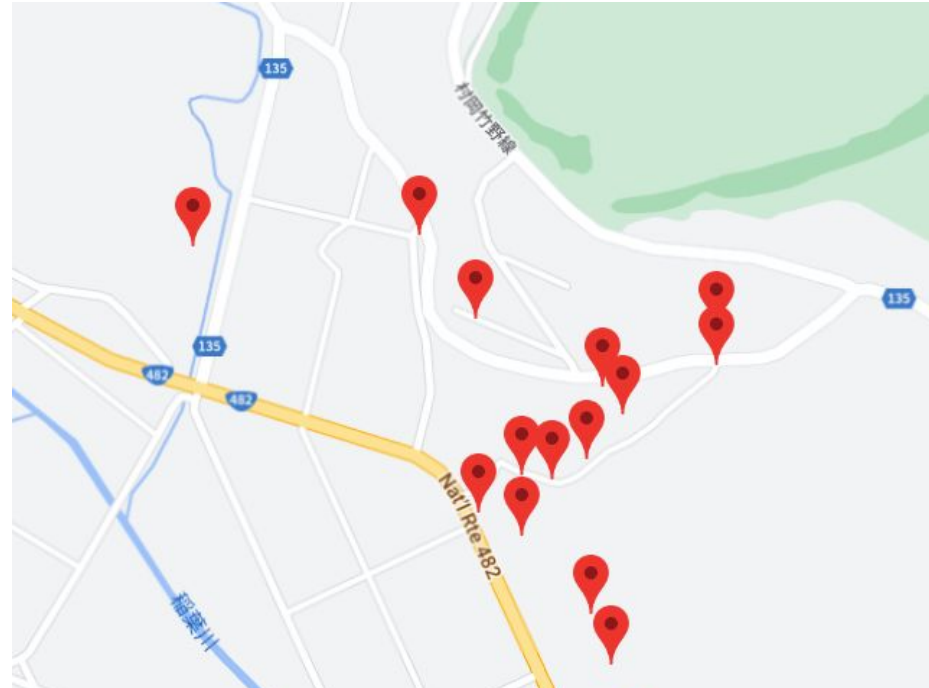
シン稽古堂塾のHPリンク

デジタルツールを
地域の方に使ってもらい
みんなで柿の木の状態を
マッピングしてみました！



イベントの結果...

柿の木 50/80本が
柿の実がなっただまま
放置されていました



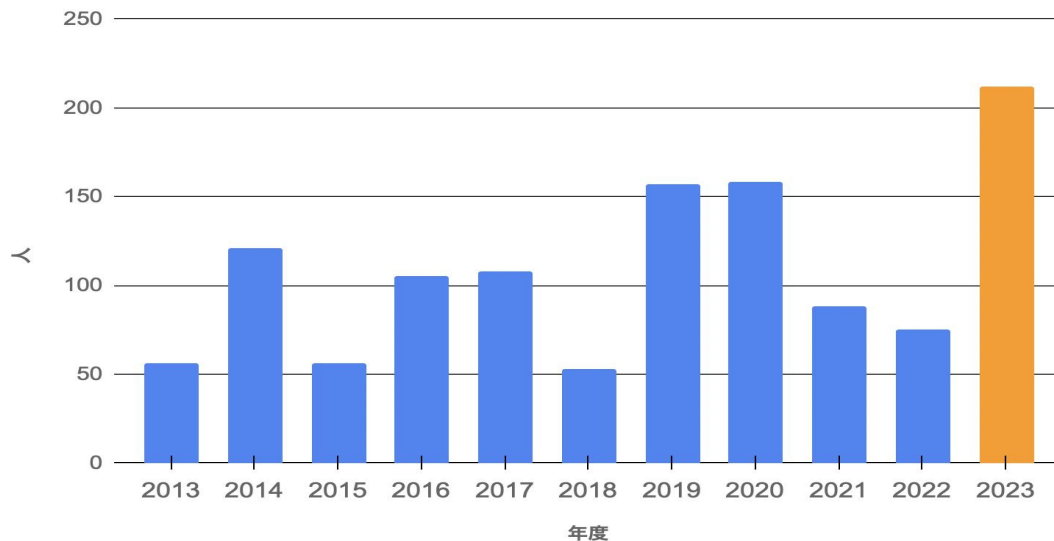
イベントでピンをうった柿の木の場所（例）

クマやサルが
残った柿を食べに
まちに降りてくることも。



クマによる 人身被害者の数 2023年が過去最多 (全国で212人)

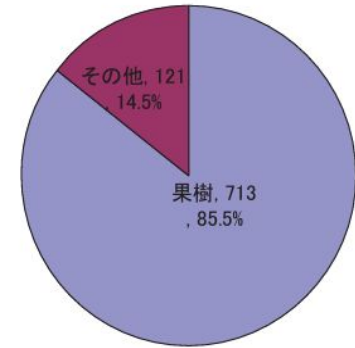
クマ類による人身被害者の数（環境省まとめ）



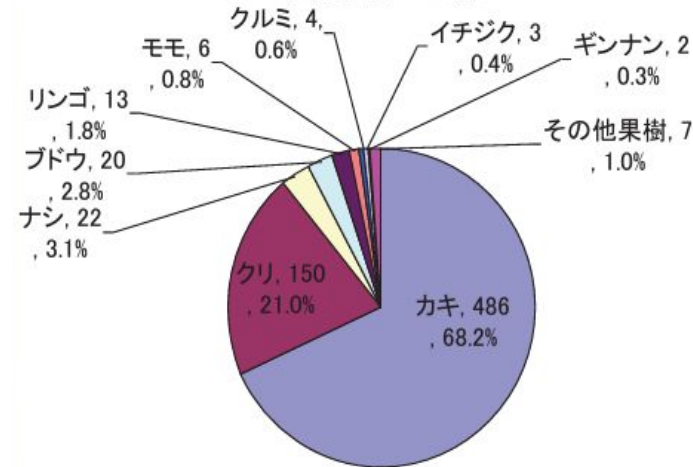
地域差はあるものの...

柿はクマによる果樹被害の の68%を占めています

被害の内訳



果樹被害の内訳



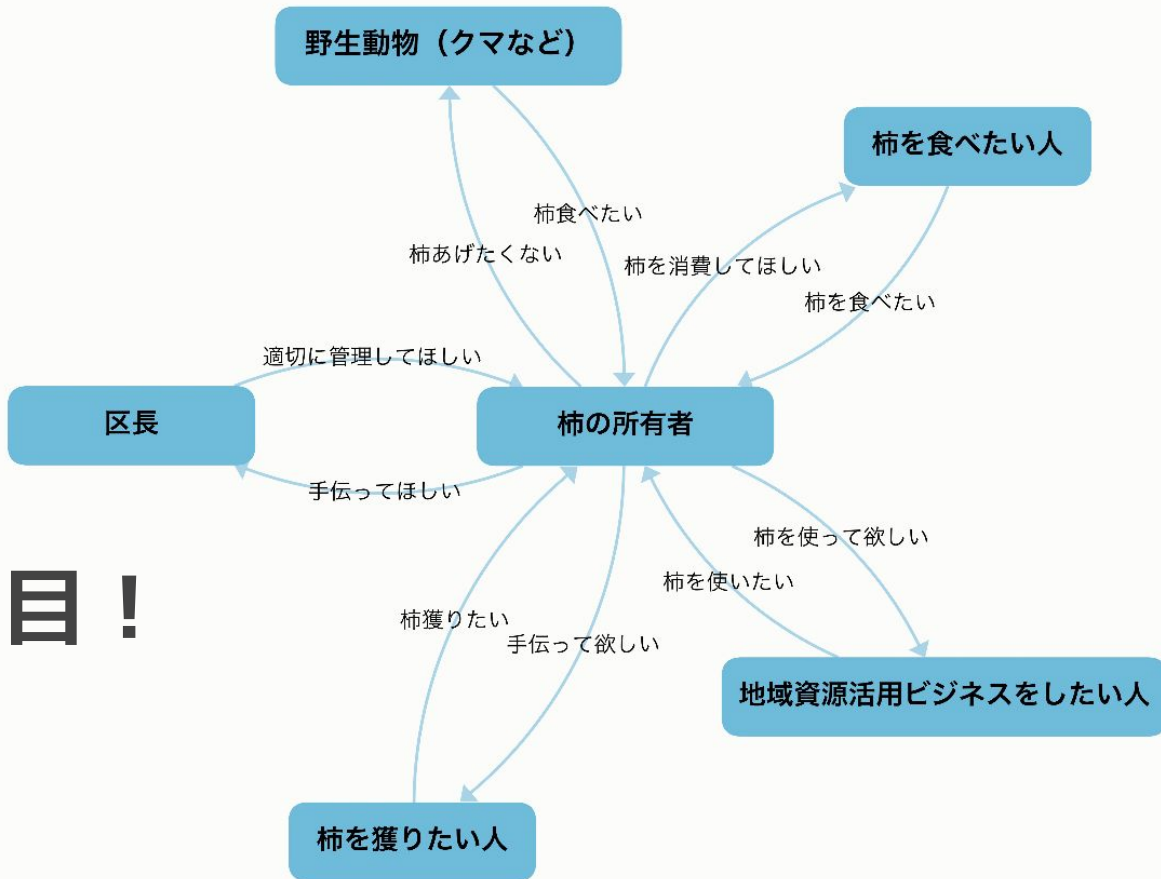
図：横山真弓（兵庫県立大学/兵庫県森林動物研究センター）より抜粋
https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort5/effort5-3c/kiso_fukuoka/kuma.pdf

シン稽古堂塾のアイデア

柿をめぐる

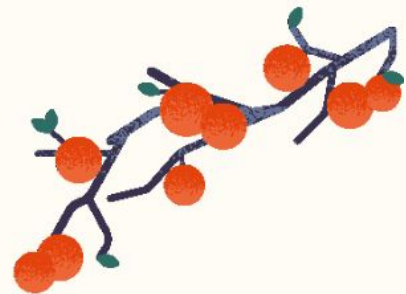
市民や動物間の

「価値交換」に注目！



柿マネジメントプラットフォーム

Botta!



収穫されずに残っている柿とそれを欲しいと思っている人たちに
つなげる地域のプラットフォーム



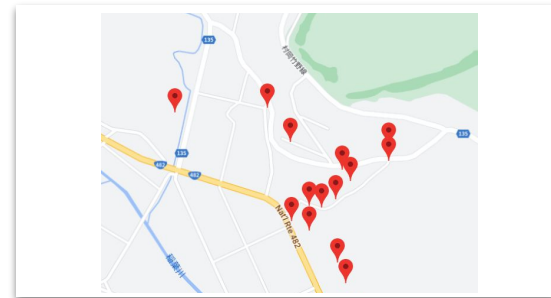
うちの村では高齢化で柿をとれる人も少なくなりました。柿が余ってしゃーれへん。クマも寄ってくるしどないしょう？



そんな時は豊岡市の柿マネジメントプラットフォーム「Botta!」を利用してみよう！まずは市役所などへ利用相談



シン稽古堂塾と一緒に「マッピングイベント」実施して、参加者と一緒に地域を歩き、柿の木のデータを集めよう



柿のデータを地図で可視化して分析しよう。柿をどのように利用・管理するのかをみんなで考える機会になる

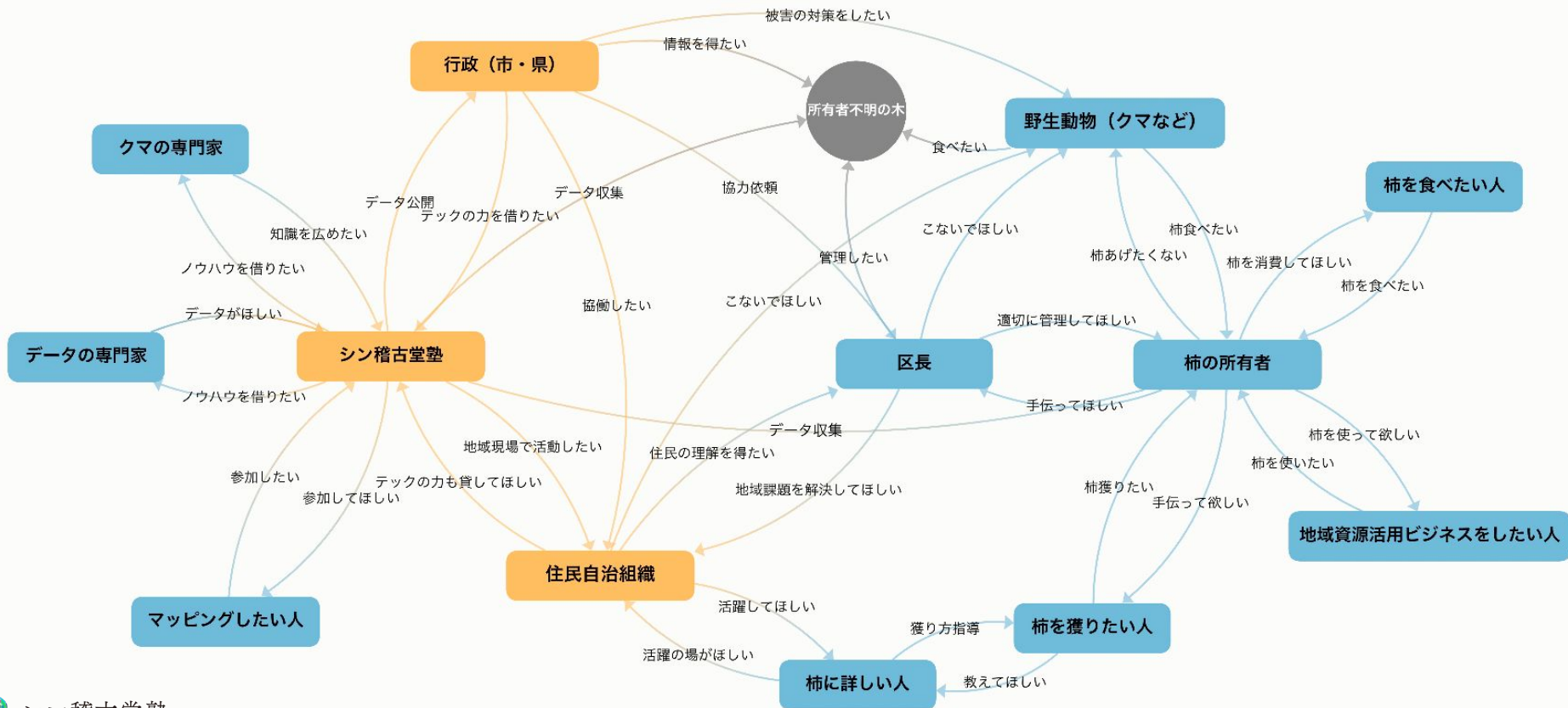


「柿がほしい」と思っている人たちに余っている柿をPRしよう！マッチングしたら一緒に収穫やなどを楽しもう！



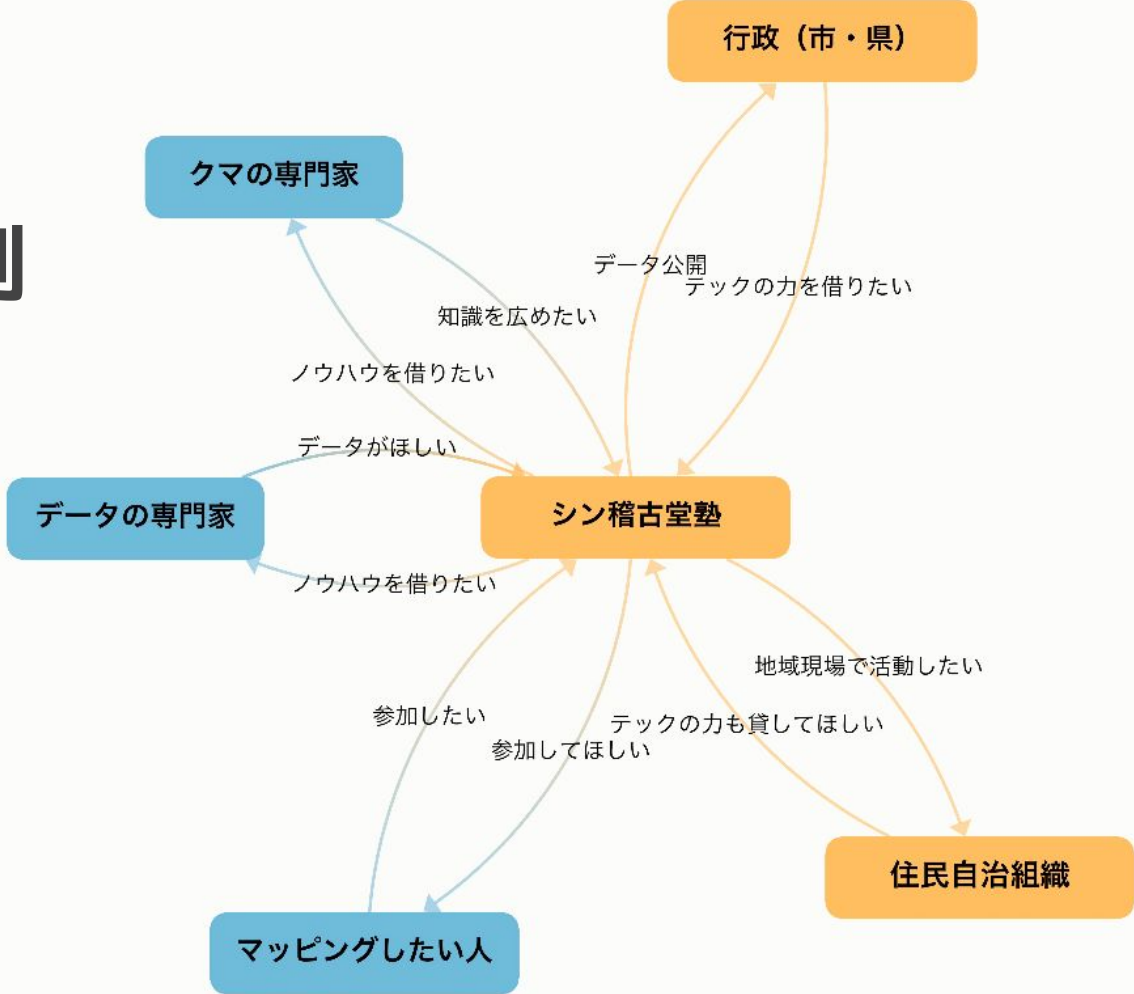
提供した人は大喜び！柿も余ることが少なくなってクマが出没することも減った！地域の人もこれで安心。

Botta!にまつわる価値の循環



シン稽古堂塾の役割

- 当事者の問題を知る
- 専門家とつなげる
- 仲間を集める
- 公共につなげる



行政や民間と連携した仕組みづくり

自然との共生にむけてできそうなこと

短期

イベント実施

学習会開催

さらなるニーズ調査

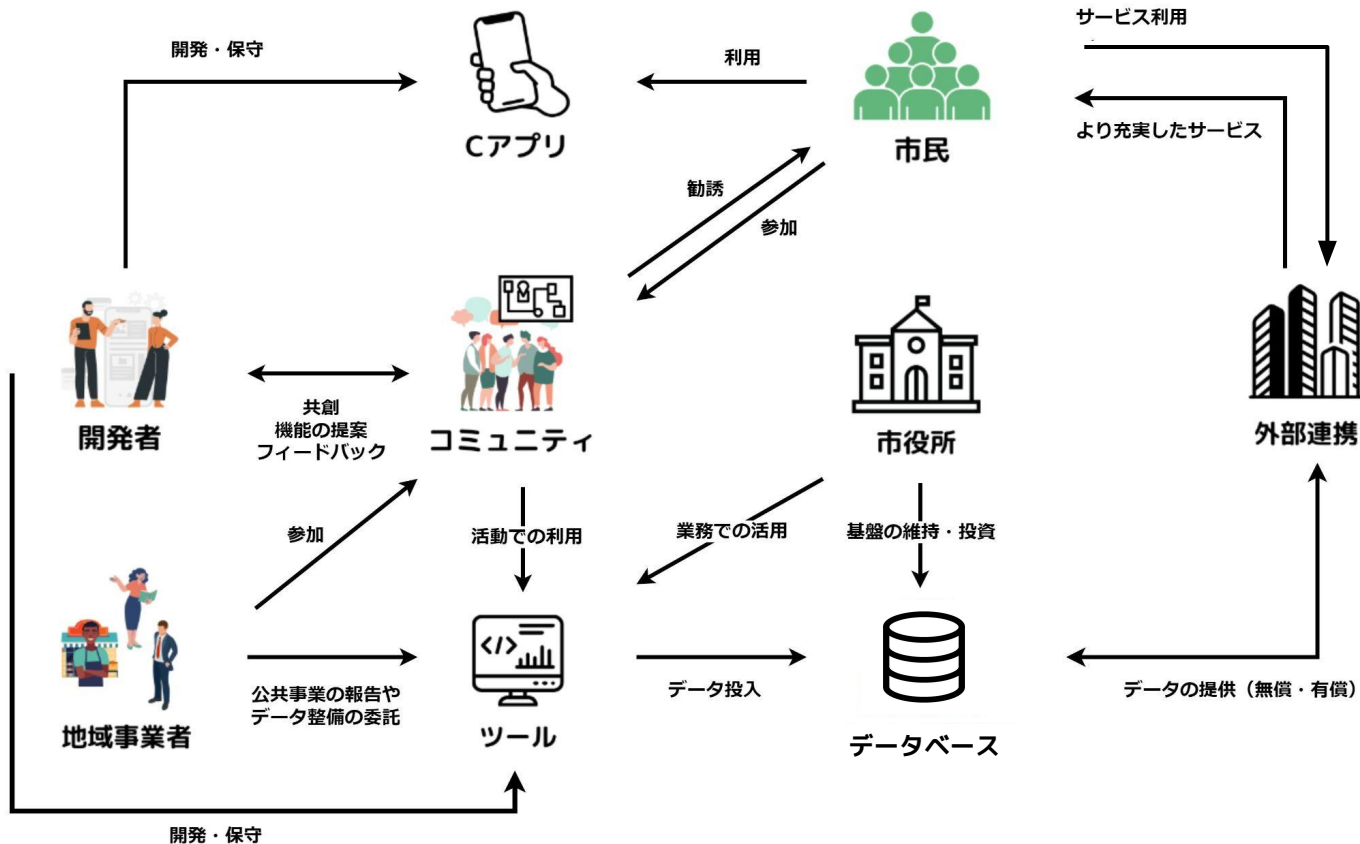


中期・長期

住民同士で、「自然との共生」
をともに考える

行政と一過性ではない
継続性のある活動をすすめる

地域資源×データ利活用の理想像





まちの課題解決の為に出来ること∞

~豊岡を自然共生のまちへ~

● 稽古堂塾からシン稽古堂塾へ

(1) 豊岡稽古堂

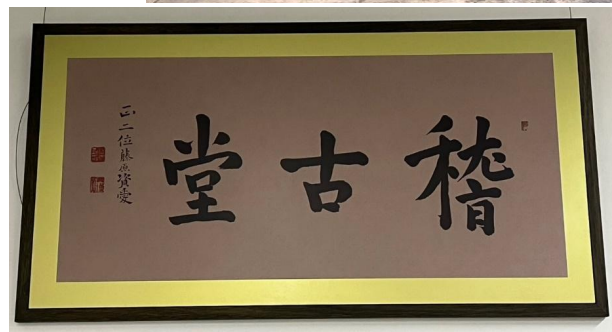
- 1927年建築。3階部分は1952年に増築。旧豊岡町役場、旧豊岡市役所として使用。
- 2011年、新庁舎の建設開始。北但大震災復興建築物群の一つとして保存を決定。
- 曳家移転し、1階と3階を「豊岡稽古堂」として市民の憩いの場に。2階は、議場として2013年にリニューアル。



● 稽古堂塾からシン稽古堂塾へ

(2) 稽古堂

- 豊岡藩 8代藩主京極高行が創設した藩校。
天保4年(1833)～明治4年(1871)
- 藩財政が窮乏していたにもかかわらず、文教政策に力を注ぐという藩政改革を進めた。
- 藩士の子は7歳になると必ず入学し、有望な者には藩費で遊学させた。生徒は藩士の子弟に限らず、庶民や他藩の者も入学を許された。生徒数は約220人。
- 浜尾新（東京帝大総長）、久保田譲（文部大臣）、和田垣謙三（経済学者）、吉村寅太郎（第四高等学校長）など



▲ 豊岡稽古堂 3階に掲げる扁額

● 稽古堂塾からシン稽古堂塾へ

(3) 稽古堂塾

～「平成の藩校」で未来の豊岡市を担う人材を育成する～

- 政策やビジネスプランの作成、実行に必要な理論、理念、技術等を民間の方と市職員が共に学ぶ「豊岡稽古堂塾」を開講。（2014年度～2019年度）
- 戦略的に考え、効果的に実行する能力を身に付けた人材を育成するとともに、民・官を越えたネットワークを形成。

年度	講義回数	受講生	
		民間	市職員
2014年度	19回	10人	10人
2015年度	16回	14人	9人
2016年度	14回	13人	10人
2017年度	16回	14人	10人
2018年度	16回	12人	12人

● 稽古堂塾からシン稽古堂塾へ

(4) シン稽古堂塾 (2020~)

知らないを楽しむ
豊岡人の学び舎。

テクノロジーが進化している今日、
私たち豊岡人が楽しく豊かに生きるために
なすべきこと・なせることも変わってきました。

稽古堂ができてから約180年、
稽古堂塾できてから7年が経ち、
私たちは今の時代にあった
新しい学びの場をつくりました。

例え、豊岡を離れていてもこの学び舎で繋がれば
みんな、豊岡人。
豊岡が、豊岡人が、より輝くための稽古をしよう

● 豊岡市地域の課題

(1) 豊岡の自然を人々の生活と結び、次世代につなぐ仕組みをつくる

● 森林資源の管理

間伐の促進、森林管理の担い手育成、教育、森林の多面的機能の活用など

● 外来種の適切な駆除や市民への周知

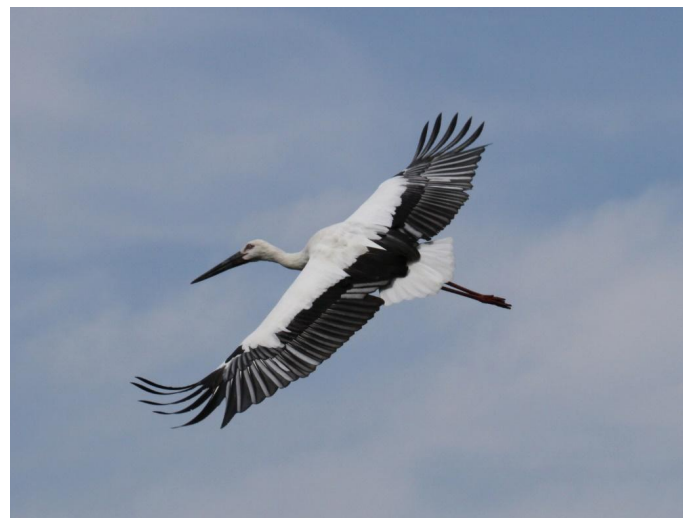
特定外来植物オオキンケイギクなど外来種駆除のための仕組み

● 地元食材の地産地消促進

域内需要の創出、温暖化対策×フードロス対策など

● 有害鳥獣対策

駆除の実施だけでなく、駆除後の適切な対応方法、肉・皮の有効活用方策など



担当部署：コウノトリ共生部 コウノトリ共生課

● 次への一歩（行政が出来ることは…?!）

(1) 他所への拡大 … 未導入地域に熊を誘導することになる

市内全域への拡大⇒近隣市町域への拡大⇒広いエリアへの普及

(2) 他分野への拡張性検討 … 地域の困りごとは際限なく存在

柿&熊から柿の木所有者と柿の実活用者を結ぶ =Botta！

例：①野菜or魚介類etc生産者と地域の消費者を結ぶ =Totta！

②買い物等に出かけたい人と相乗り可能な運転者 =Notta！

③空き家所有者と定住希望者からの =Karita！ Katta！

④既に不必要になった物と直ちに必要とする者 =Tukatta！

（育児・介護etcのライフステージ）

課題&可能性は無限大!! ワクワクドキドキ 楽しみながら！